

[年度] 平成26和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 湯浅なすの青果販売用果実生産に適した栽培技術

[要約] 湯浅なすの青果販売用果実の収量は、主枝をひも誘引で4本に仕立てると無整枝に比べて、また‘トナシム’台木は自根株に比べて、それぞれ増加する。

[キーワード] 整枝、誘引、接ぎ木、なす

[担当機関名] 農業試験場栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

湯浅なすは金山寺味噌の具材として用いられる湯浅地域在来の大型丸ナスである。近年、青果販売が始められたが、青果販売用果実の割合が低いので、その割合を高める栽培技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 主枝を4本に仕立てることにより総収量は減少するが、青果販売用果実の収量は増加する(図1)。
2. 整枝方法では、青果用果実の収量はひも誘引区、4本支柱区、1本支柱区の順に多くなる(図2)。
3. 栽培管理時の作業性はひも誘引区がもっとも効率的である。4本支柱区はひも誘引区に比べて、主枝の位置が低くなるため、株元の整枝作業が実施しにくい。1本支柱区は主枝を株元の方向へ引っ張り上げるため、株元付近が混み合い、作業の効率が低い(図3)。
4. ‘トナシム’を台木に用いると、青果販売用果実の収量がトルバム・ビガー台、自根に比べて増加する(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 湯浅なすの生産・販売については「和歌山湯浅なす推進研究会(代表:丸新本家(株))」が行っている。
2. 日照不足による着色不良果が発生しやすいため、誘引や剪定などにより果実への日照量を確保する必要がある。

[具体的データ]

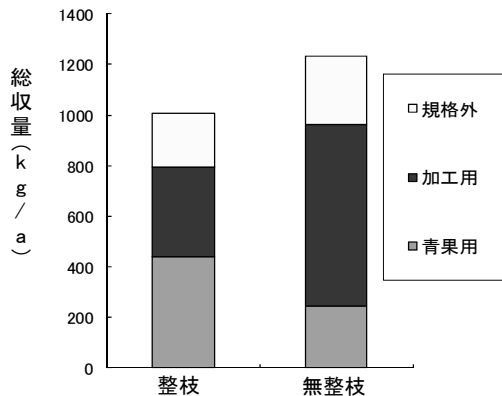


図1 整枝が品質構成に及ぼす影響(2012年)

畝幅：200cm 株間：100cm
 条数：1条 栽植密度：50株/a
 整枝区：吊り下げ誘引主枝4本仕立て
 無整枝区：無整枝・無剪定、ネットで枝を支持
 定植日：5月21日
 調査期間：7月26日～10月1日
 品質
 青果用果実・・・無傷で虫害が無く、果形が丸い果実。
 加工用果実・・・着色不良果や乱形果。
 規格外果・・・ツヤ無し果や裂果、虫害果。

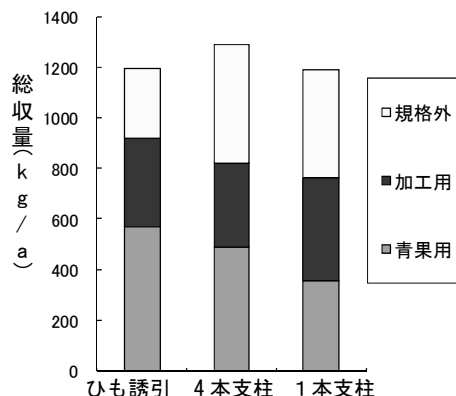


図2 誘引方法が品質構成に及ぼす影響(2013年)

畝幅：180cm、株間：150cm、
 条数：1条、栽植密度：33株/a
 定植日：5月13日
 調査期間：6月27日～10月21日
 品質：図1に同じ
 ひも誘引区、4本支柱区、1本支柱区
 については図3参照



ひも誘引



4本支柱



1本支柱

図3 各試験区の草姿(2013年)

表1 台木の種類が収量に及ぼす影響(2013年)

試験区	青果用 (kg/a)	加工用 (kg/a)	規格外 (kg/a)	総収量 (kg/a)	青果用果率 (重量%)
トナシム	570 a	350 a	274 a	1194 a	48
トルバム・ビガー	435 b	370 a	355 a	1160 a	37
自根	419 b	241 a	343 a	1003 a	42

注) 異なる英小文字間に5%水準で有意差があることを示す (Tukey-Kramer法)。
 畝幅：180cm 株間：150cm 条数：1条 栽植密度：33株/a 整枝法：吊り下げひも誘引主枝4本仕立て
 定植日：5月13日 調査期間：6月27日～10月21日 品質：図1に同じ

[その他]

研究課題名：湯浅なすの品質向上技術の開発

予算区分：農林水産業競争力アップ技術開発 地方野菜の高品質多収生産技術開発

研究期間：平成25年度～27年度

研究担当者：千賀泰斗、東 卓弥、堺 隼人

発表論文等：なし

HP掲載の可否：可